

## 令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：空知地区
- 2 事例報告学校名：岩見沢市立くりさわ学舎
- 3 報告者職・氏名：校長 五十嵐 吏加
- 4 キーワード：校訓「つなぐ」に込めた想い

### 1 はじめに

「岩見沢市立くりさわ学舎」は、令和7年4月1日に開校した岩見沢市初の義務教育学校である。令和5年度より施設分離型の小中一貫教育を進めてきたが、教育活動の充実とともに地域の願いも高まり、この度、施設一体型の義務教育学校として新たなスタートを切ることができた。



栗沢町は、平成18年の市町村合併により岩見沢市と統合した市の南側に位置する農村地域である。現在、児童生徒数152人、教職員数36人と、お互いの顔が見える規模感で教育活動が展開されている。しかしながら、多くの地域と同様に少子化が進行し、児童生徒数は年々減少傾向にある。

【校訓】 「つなぐ」

【学校教育目標】 ・自ら学ぶ ・よりよく育つ ・大事に生きる

【9年間で目指す児童生徒像】

「ふるさとに誇りをもち、生涯にわたって学び続け、  
自らの人生をたくましく、しなやかに生き抜く児童生徒」

### 2 義務教育学校「くりさわ学舎」について

栗沢町には、かつて複数の小学校が存在した。現在もスクールバス4コースで通学を支えており、最も遠い地域からは約10kmの距離を登校している。栗沢小学校閉校にあたり、校長室に保管されている沿革史を読み返すと、どの学校の校歌にも「学び舎」という言葉が用いられていることに気付いた。複数の学校の歴史と記憶を受け継ぎながら、1年生から9年生までが同じ場所で共に学ぶという新たな歩みを象徴する名称として「学舎」を用いることとした。また、誰からも親しみを感じてもらいたいとの願いから、「くりさわ」の表記はひらがなとした。地域の方々からは、「自分の母校がよみがえったようでうれしい」との声も寄せられている。

### 3 地域との連携

義務教育学校の開校に向けては、地域の方たちの強い後押しがあった。小中連携を進める中で、義務教育学校の視察に同行して下さったり、視察先の地域の方たちとの交流が生まれたりすることもあった。学校運営協議会や地域学校協働本部の方たちは、「義務教育学校」という制度について、自らの言葉で語ることでできる力強い伴走者である。

#### (1) マロン運動会

平成31年（令和元年）度から、小・中合同運動会を実施してきた。コロナ禍を経て、改めて小・中合同運動会を実施してきたが、令和6年度からは、今までの運動会の目的と名称を見直し、ダンスや個人競技など事前準備や練習が必要な競技は行わず、団体競技を主とした「スポーツフェスティバル」とすることとした。その際、地域学校協働本部（マロンドリーム）から「午後からは

子どもたちを中心とした地域運動会を行いたい」という提案があった。もちろん喜ばしいことなので、大賛成するとともに、持続可能・負担軽減のため、運営にあたっては「教職員の参加は自由、役割などは与えない」というお願いをした。保険をかけるために必要な申込はGoogleフォームを活用、当日の競技は道具を最小限にし、年齢も問わずに楽しめるもの、と試行錯誤を重ねて第1回「マロン運動会」が開催された。親子4世代での参加など、地域と学校が自然とふれあえる場となっている。



今年度、第2回目を迎えたが、地域の飲食店の方のご協力のもとで、子ども食堂を開催したり、生徒会有志がかき氷コーナーを担ったりするなど、地域と学校が共に過ごす貴重な時間となった。

#### (2) マロン独自行事

1回目のマロン運動会を終えて少ししてから、マロンドリームの会長から「地域に住む卒業生が、自分の高校での取組を後輩たちに知ってもらいたいそうだな」という話を聞いた。吹奏楽部に所属している彼女は、ダンスをしながら演奏する楽しさを知り、後輩たちにも知ってもらいたい、と思ったとのことだった。学校の体育館は、別の行事ですでに予定があったため、地域にある市民センターでの開催となった。中学生との合同演奏も実現し、企画をした高校生が目には涙を浮かべながら喜ぶ場面もあり、地域全体の心温まる演奏会となった。今年度は、地域の神社境内でのキャンパや体育館でのキンボール大会など、「子どもたちのやってみたい」をかなえてあげたいという熱い思いで活動している。

#### (3) FSP

くりさわ学舎では、全国でも事例のある「フリースタイルプロジェクト」を実施している。



前期課程は、生活科や社会科、総合的な時間の学習で学んだことをグループごとに調べ、まとめて学びを深める。例えば、5年生は地域の伝統である栗沢太鼓を地域の方から学び、6年生はマロンの方と一緒に、地域にある石碑を探しに行く。後期課程になると、その学びは個人探究となる。「将来、美容師になりたい」という生徒のところには美容師が来て、実際の仕事の内容を話してくれたり、ウィッグで髪の毛を切る体験をさせてくれたりする。「この世で1番おいしいチャーハンを作れるようになりたい」という生徒のところには、中華料理のシェフが来て、チャーハン作りのコツを教えてくれる。「野球のバッティングが上達したい」という生徒には、地域の社会人野球チームの選手が直接指導してくれるなど、生徒たちは自分たちの学びたいことをインターネットや本で調べた上で、プロから話を聞き、学びを深めることができる。この講師のほとんどは、マロンドリームのメンバーが探し、調整してくれている。これは、地域に詳しく、人脈がある方たちだからこそできることである。

#### 4 校訓「つなぐ」

開校にあたり、旧栗沢中学校の校長と様々なことについて相談を重ねた。しかし、校訓については、二人とも悩むことなく「つなぐ」という言葉が浮かんだ。

校訓「つなぐ」は、地域と学校が築いてきた関係性そのものを表している。これまで「つないでもらった」立場から、これからは自らが「つなぐ」側へと成長してほしい。人、地域、社会、世界、歴史…たくさんのものをつなぎ、自分の人生をたくましく、しなやかに生きてほしいと願い、日々の学校経営に臨んでいる。